町民大学寿教室「ストレスとストレスの対処」、全町教育講演会「自己肯定感を向上させる取り組み」　ほか

「大丈夫、順調」常に前向きな気持ちで

町民大学寿教室「ストレスとストレスの対処」

町民大学寿教室が2月9日、町公民館ふれあいホールで行われ、約60人が参加しました。

帯広で心と体のサポートを行っている『小春日和』の中岡千香子主宰が「心の健康を考える～ストレスとストレスの対処」というテーマで講演しました。

講演では、ストレスの要因となる思考パターンやストレスを感じた時の対処法などが説明され、物事を否定的に考えず、肯定的に考えることが大切だということを学びました。

「肯定的な思考パターンを定着させるには、不平不満を言わないこと。『大丈夫、順調』といった言葉を使うことで前向きな気持ちになる」と中岡さんは話していました。

講演をする中岡さん

子供と一緒に大人も育つのが理想の形

全町教育講演会「自己肯定感を向上させる取り組み」

全町教育講演会「自己肯定感を向上させる学校・家庭・地域での取り組み」が2月18日、町公民館で開催され、保護者など約60人が参加しました。講演会では、独立行政法人国立青少年教育振興機構・青少年教育研究センター研究員の青木康太朗さんが「子供が失敗した時に、大丈夫とばかり言っていては、失敗しても大丈夫なんだとわからないまま勘違いして育ってしまうので、適切な対応が必要となる。また、自己肯定感を高めるには、学校内など限られた世界以外の人との交流を持ち、可能性を広げてあげるとともに、大人も子どもと一緒に育っていくというのが理想の形」と話していました。

講演する青木さん

高橋さん夫妻の長女幸季ちゃんが100人目

出産祝い金制度

平成26年度から始まった出産祝い金制度の100人目の対象者に3月3日、浜田正利町長から出産祝い金が贈呈されました。

対象となったのは、高橋孝志さん・範子さん夫妻の長女幸季ちゃん。出産祝い金制度は平成26年度から少子化対策の取り組みとして開始されており、第1子に10万円、第5子になると100万円が支給されます。

「子どもの生活でお金は必要なのでありがたい。長女には、丈夫に元気に育ってほしい」と孝志さんは話していました。

安心して暮らし続けられるよう

町と十勝道新会が「高齢者の見守り活動」の協定締結

十勝管内の北海道新聞販売所で構成する十勝地方道新会（山下研治会長）が2月16日、町と「地域見守り活動に関する協定」を締結しました。この協定の締結により、高齢者のみの世帯などに新聞配達をする際に異変を感じた場合は、業務に支障のない範囲で町に通報していただくなど、地域全体で高齢者の孤立死を未然に防ぐ活動が行われることとなっています。

町長室で行われた締結式は、浜田正利町長と同会会員の北海道新聞新得販売所の林乙彦所長との間で、北海道新聞帯広支社の横山聡支社長の立ち会いのもと行われました。林所長は「町民のために役立てられれば」と話し、また浜田町長は「地域住民の安心安全に気を配っていただけるのはありがたい」と話していました。

協定書を手にする林所長（中央）と立ち会いした横山支社長（右）

屈中３年生がSkype（スカイプ）を使い英語の授業　ほか

ニュージーランドの生徒らと英会話

屈中3年生がSkype（スカイプ）を使い英語の授業

屈足中学校の3年生が英語の授業でSkype（インターネットを使ってビデオ通話などができるコミュニケーションソフト）を使って、ニュージーランドのカシミア高校の生徒と英語で会話をしました。

カシミア高校は、クライストチャーチ市内の閑静な高級住宅地にあり、13歳～18歳の生徒約1600人が通っています。

屈足中の生徒らは、英語で町の紹介をした後に、「日本語で知っている言葉は？」と質問すると「ニュージーランドの生徒は「ありがとうございます」と答えるなど、話した英語が通じた時の喜びを感じているようでした。

モニター画面に映し出されたカシミア校の生徒と英会話をする屈足中の生徒たち

子どもに危険が及ばないように

新得保育所で不審者対応訓練

不審者対応訓練が2月16日、新得保育所で行われ、新得警察署の井元健二係長の協力で職員の対応の仕方を学びました。

保育所に「子どもに会いたい」という刃物を持った不審者が来たという想定で行われ、所長が玄関で対応し、子どもに危険が及ばないように別室へ誘導。女性職員は、園児を玄関から一番遠い教室に誘導し、男性職員がさすまたを用いて不審者を制圧しました。

訓練終了後には、井元係長から園児に向けて「不審者に声をかけられた時には大声で叫ぶなど、連れていかれないように気をつけてください」と注意がありました。

兵庫県の白石さんが仕事と暮らしを体験

移住体験モニター事業で1週間滞在

田舎での暮らしに興味があるものの、仕事や住まいなどに不安があるという方を対象にした就業体験と移住体験をセットにした移住体験モニター事業が2月5日から7日間行われ、兵庫県在住の白石佳男さんが新得町での暮らしと仕事を体験しました。

就業体験は、さほろ酒造での梱包作業や新得物産グループでのホールスタッフなどの仕事をそれぞれ2日間ずつ体験しました。

白石さんは「限られた短い時間だったが、直に地場産業や町の雰囲気に触れられて、いい経験になった。今後の参考にしたい」と話していました。

新得そばの館でホールスタッフとして就業体験中の白石さん

広報モニターからの声

広報モニターさんから「広報しんとく2月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

▼台風災害復旧工事について、近隣の方や道路を頻繁に使う人など、いつ復旧するか気になっている方も多かったと思います。予算等々まだまだ課題はあると思いますが、明確に復旧スケジュールがわかり一安心と言ったところです。

▼総合戦略については各事業ごとに指標、実績進捗状況に分かれており、大変見やすく思います。ただ、事業に対する評価指標の内容や算出根拠が腑に落ちない点もありました。

▼スケートやスキー、豆まきなど冬らしい写真が目立ちました。厳冬期、なかなか外に出づらくはなりますが元気に活動する子ども達に負けぬよう、奮起してより良い町づくりを心がけていきたいと思います。

▼創生総合戦略の進捗状況がバラバラな印象。また、進んでいる理由や遅れているものへの改善点などが今後提示されると、住民も考えるヒントを得られると思う。いつも思うが、すでに平成28年度も終わろうとしている中の平成27年度の内容。意義が薄れるのでもう少し早期提示をお願いしたい。